

本の世界を深めよう（6年）

きつねの窓

●指導目標

「きつねの窓」を読んで幻想の世界にひたりながら現実の世界では満たすことのできないなつかしさやさびしさの気分情調を味わい、心情を豊かにすることができる。

（１）態 度

幻想の世界にひたって読もうとすること。 読む

（２）技 能

- 幻想の世界のイメージをかもし出す、効果的な表現や描写を読み味わうこと。 読む 書く
- 幻想の世界にひたって気分情調を味わうこと。 読む 書く

（３）言語事項

- 語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心を深めること。
- 新出漢字を読んだり書いたりすること。

●教材について

（１）児童の実態（技能）

（ア）クライマックスをおさえること

A ... 4人 B ... 20人 C ... 2人

（イ）叙述に即して場面の情景を想像すること

A ... 6人 B ... 17人 C ... 3人

（ウ）叙述に即して人物の心情を想像すること

A ... 11人 B ... 9人 C ... 6人

クライマックスをおさえることができない児童は2人である。文章を読むこと自体に抵抗がある児童もいる。情景の想像は、書かれていることをもらさず想像できない児童が半数以上いるので、叙述をおさえるためのステップが必要である。また、気持ちの想像も手がかりをおさえられない児童が3名いるので、個人指導も必要である。

（２）習熟度に応じた学習シートの開発

○クライマックスをおさえる技能について

- ♥；クライマックスをおさえる力が十分にある児童は、学習方法を確認してから自由に記載できるシートで学習する。
- ◆；クライマックスをおさえる技能が十分でない児童は、いちばん感動したところはどこかを確認してから感じたことを書くようにしたシートで学習する。
- ♠；読むこと自体に抵抗のある児童は、グループでいっしょに音読してから、いちばん感動したところを確認し、感じたことを書くようにしたシートで学習を進める。

○叙述に即して情景や人物の心情を想像する技能について

- ♥；情景も人物の心情も想像する力が十分にある児童は、学習方法を確認してから自由に記載できるシートで学習する。
- ◆；想像する力が十分でない児童は、時間的な経過を細かく分けて想像するようにしたシートで学習する。
- ♠；読むこと自体に抵抗のある児童は、手がかりの言葉が教科書のどこにあるかサイドラインを引きながら確認してから想像して書くようにしたシートで学習を進める。

（３）シート選択予想人数（児童数 27 名）

コース名	♥ コース	◆ コース	♠ コース
予想人数	直観 10人 分析 12人	直観 12人 分析 12人	直観 4人 分析 3人

●学習指導計画（全 11 時間）

過程と時間	行動的目標	課 題	学習評価
直観読み 第1・2時	全文を直観的に読んでクライマックスをおさえ感動の中心を次のように書いたり話したりすることができる <クライマックス> （P44L10～p 46L10 帰り道、両手で窓を作り、子どものころの「ぼく」の家を見ている場面） <主題範囲> きつねがそめてくれた指の窓で、母や妹と暮らしたなつかしい家の様子を見て、この指を大切にしたいと思った「ぼく」の気持ちがよくわかった。	いちばん感動したのはどの場面でしょうか。 また、その場面からどんなことを感じましたか。 学習シート シート1（略）	観点 物語の主題を直観的に読み取ることができたか。 基準 行動的目標による 方法 条件法による自己評価 A…物語の大体とクライマックスをおさえ「ぼく」の心情について書いたり話したりしている。 B…クライマックスをおさえているが、心情がとらえられていない。 C…クライマックスがおさえられない
分析読み 第3時	紹介・発端（P34L1～P35L7）の「歩き慣れた山道を、鉄砲をかついでぼんやり歩いていた「ぼく」が、一面のききょうの花畑に出た場面」を読んで、その時の場面の情景と「ぼく」の心情を、次の条件をおさえて想像し、書いたり話したりすることができる。 ・みがきあげられた青いガラスのよう ・地面もうっすらと青い ・広々とした野原 ・一面のききょうの花畑 ・ぼくは息をのむ ・すぐ引き返すんだ ・けれどいい風 ・引き返すのはもったいない	道の一つ曲がった時から、こしを下ろしてあせをふくまでの場面の情景や「ぼく」の気持ちはどんなでしょうか。 学習シート シート2（略）	観点 場面の情景と「ぼく」の驚きや不安の心情を想像しながら読むことができたか。 基準 行動的目標による 方法 条件法による自己評価 A…手がかりとなる言葉をおさえ、適切な想像をしている。 B…おさえた言葉が少なく、想像が適切でない。 C…手がかりになる言葉がおさえられない。
(分析読み 第4～6時 略)			
分析読み	展開3 （P42L7～P44L9）の「ぼく」が、指を青く染めてもらい、それで作った窓をのぞく場面を、次の条件をおさえて情景や「ぼく」の心情を想像し	テーブルの上に両手を置いてからおみやげになめ	観点 場面の情景と「ぼく」のときめき、喜びの気持ちを想像しながら読むことができたか。 基準 行動的目標による 方法 条件法による自己評価

第7時	ながら読み，ときめきや喜びについて書いたり話したりすることができ る。 ・一人の少女の姿 花がらのワンピース ぼうし ほくろ ・おどり上がり，お礼を払う ・「鉄砲をください。」 ・「よし，やろう・」	こをもらうまでの場面の情景やぼくの気持ちはどんなでしょうか。 学習シート シート6（略）	A ...手がかりとなる言葉をおさえ，適切な想像をしている。 B ...おさえた言葉が少なく，想像が適切でない。 C ...手がかりになる言葉がおさえられない。
分析 第8時 (本時)	クライマックス」 (P44L9～P46L10)の「ぼく」が，いい気分になってまた両手で窓を作ったのぞいている場面を読んでその時の情景や「ぼく」の心情を，次の条件をおさえて書いたり話したりすることができる。 ○杉林を歩き始めた場面 ・情景をおさえる。 (秋の日がきらきらとこぼれて，林の中は温かく静かでした) ・すっかりいい気分になって，ぼくは鼻歌を歌いました ○両手で窓を作ったのぞいている場面 ・情景をおさえる。 (細かいきり雨，なつかしい庭，古い縁側，子どもの長靴がほうり出されて，小さな菜園，青じそがひとかたまり，窓の中はすこし明るい，電気がついている，二人の子どもの笑い声) ○両手を下ろした場面 ・フーッと大きなため息 ・なんだかとてもせつなくなりました ・まったくすてきな指をもちました	きつねに帰りの道をきいてからこの指はいつまでも大切にしたいと思いながら林の道を歩いていくまでの場面の情景とぼくの気持ちはどんなでしょうか。 学習シート シート7（最終ページ参照）	観点 場面の情景と「ぼく」のときめき，喜びの気持ちを想像しながら読むことができたか。 基準 行動的目標による 評価 条件法による自己評価 A ...手がかりとなる言葉をおさえ，適切な想像をしている。 B ...おさえた言葉が少なく，想像が適切でない。 C ...手がかりになる言葉がおさえられない。
分析	結末 (P46L11～P47L2)の「ぼく」が，無意識に手を洗ってしまった場面を読んで，「ぼく」の心情を，次の条件をおさえて書いたり話したりすることができる。	小屋に帰ってからがっくりとうなだれるまでの場面のぼくの気持ちはどんなでしょうか。	観点 場面の情景とぼくの落胆の気持ちを想像しながら読むことができたか。 基準 行動的目標による 方法 条件法による自己評価 A ...手がかりとなる言葉をおさえ，適切な想像をしている。

第 9 時	・ 無意識に自分の手を洗ってしまった ・ いけない，と思った時は，もうおそすぎました ・ いくらひし形の窓をこしらえても，その中には小屋の天井が見えるだけ ・ もらったなめこを食べるのもわすれて，がっくりとうなだれていました	学習シート シート 8（略）	B ...おさえた言葉が少なく，想像が適切でない。 C ...手がかりになる言葉がおさえられない。
体 制 読 み 第 11 時	幻想的想像（ファンタジー）の世界にひたりながら全文を読んで，感想を書いたり話したり朗読したりすることができる。	読みかえして，作品の世界の感想をまとめたり，好きな場면을朗読したりしましょう。 学習シート シート 10（略）	観点 場面の情景や登場人物の気持ちを想像してファンタジーの世界を楽しむことができたか。 基準 行動的目標による 方法 条件法による自己評価 A ...想像を楽しみ，主題範囲にかかわる内容の感想を書いたり朗読したりした。 B ...想像を楽しみ，主題範囲以外について感想を書いたり朗読をした。 C ...感想が書けなかった。気持ちが伝わるように読めなかった。

●本時の展開（本時 8 / 11）

（１）本時の学習範囲 P.44L.9 ～ P.46L.10（第５場面）

（２）目標

P.44L.9 ～ P.46L.10 の「ぼく」がいい気分になってまた両手で窓を作ったのぞいている場面を，次の条件をおさえて，情景や「ぼく」の心情を想像しながら読み，ときめきや喜びについて書いたり話したりすることができる。

- 店の裏手へ回った場面
 - ・情景をおさえる。（秋の日がきらきらとこぼれて，林の中は温かく静かでした）
 - ・すっかりいい気分になって，ぼくは鼻歌を歌いました
- 両手で窓を作ったのぞいている場面
 - ・情景をおさえる。（細かいいきり雨，なつかしい庭，古い縁側，子供の長靴がほうり出されて，小さな菜園，青じそがひとかたまり，窓の中はすこし明るい，電気がついている，二人の子どもの笑い声）
- 林の道を歩いていく場面
 - ・フーッと大きなため息
 - ・なんだかとてもせつなくなりました
 - ・この指はいつまでも大切にしたい

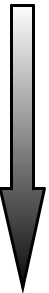
（３）学習内容

【態度】 幻想の世界にひたって読もうとすること

- 【技能】 ○ 叙述に即して指で作った窓に映っている情景やそれを見ている「ぼく」の心情を想像すること
- 幻想の世界にひたって読むこと

【言語事項】 ● 理解するために必要な語句の量を増やすこと

（４）本時の学習指導過程

過程	学習内容 (態度 ○技能 ●言語事項)	学習活動 てだて	□留意点 評価の観点
課題 	叙述に即して情景や心情を想像しようとする こと 幻想の世界にひたって読もうとすること ○ 場面の情景や人物の心情を想像しながら読むこと ○ 場面の情景や人物の気持ちを想像する手がかりとなる言葉をおさ	1 P.44L.9～P.46L.10（ 5 の場面）を直観的に読み，場面の情調（感じ）を読み取る。 2 読み取ったことをもとに課題を設定する。 きつねに帰りの道を聞いてから，この指はいつまでも大切にしたいと思いながら林の道を歩いていくまでのぼくの気持ちはどんなでしょう。	□ 学習範囲を確認し，話し合いながら学習課題を設定する。 □ 直観的に読み取ったことをもとに課題を設定する。
方法 		3 課題を解決するための方法を考える。 4 3種類の学習シートを紹介し，自分にあった	□ 合わないシートを選ぼうとしている

自己学習	えながら読むこと ● 理解するために必要な語句の量を増やすこと	学習シートを選ぶ。			子にはアドバイスをする。(決定は本人)
		5 同じ学習シートを選んだものがグループになり自己学習をする。	(♥コース) 自分なりの方法で自由に読んで書く。	(♦コース) 手がかりとなる言葉を見つけて線を引ながら読み、想像した「ぼく」の気持ちを学習シートに書く。	(♠コース) 学習シートのリード文に従って学習を進め、想像した「ぼく」の気持ちを学習シートに書く。
共同学習		6 グループで自己学習の結果を発表し合い、手がかりと想像の内容が適切か話し合う。	6 グループで自己学習の結果を発表し合い、手がかりと想像の内容が適切か話し合う。	6 グループで自己学習の結果を発表し合い、想像の内容が適切か話し合う。	□ 司会などの係はどの子も経験できるように交代で行わせる。 □ 課題からそれないように、必要に応じて、「話し合いの仕方」を参考にさせる。 □ 自分の想像と友だちの想像との相違点や共通点を見いだしながらか話し合いに参加させる。
一斉学習		7 グループの話し合いで不十分なところを補う。 8 グループで話し合ったことをもとにして、評価基準を設定する。 A ...手がかりにした言葉も想像の内容も適切である。 B ...手がかりの言葉に不足がある。または、想像の内容が不適切である。 C ...手がかりも想像の内容も適切でない。			□ 文脈の中で言葉の意味を理解させる。 評価の観点 * 手がかりの言葉をおさえて適切な想像をしながら読むことができたか。
自己評価		9 評価基準にもとづいて自己評価（ABC）をする。			□ この評価はまだゴールへの途中であることを確認する。
調節		10 評価の結果に基づいて学習のやり直しや深化学習をする。			□ 手がかりとなる言葉を確認しながら

 到達		BC...手がかりになる言葉をおさえながら，もう一度教科書を読み直してシートに書き直す。 A...その場면을味わいながら朗読する。	もう一度読ませる。（やり直し） □ 消しゴムは使わず，青色の鉛筆などで書かせる。 □ この場面についての感想を書き，朗読をする。（深化）
		11 両手で窓を作ったのぞいている場面を読み味わう。	□ 人物の心情がわかるように朗読する。 □ 学習の仕方をふりかえらせ，次時への意欲をもたせる。



「きつねの窓」

学習テーマ

5年	国語
----	----

【学習範囲】（第1～第2）

課題	
----	--

【学習方法】

学習範囲をよく読んで、次の順で学習しましょう。

- 1 場面の情景を想像し、頭に描きながら読む。
- 2 想像した情景もとにして、「ぼく」の気持ちを想像しながら読む。
- 3 ぼくの気持ちをぼくの言葉で書く。

《調節》 □ ...言葉の意味を考えて読み、やり直しましょう。 心算 □ → □

○.....フタハタシの世界にひとりながらを小ねな紙で朗読しましょう。

【学習を振り返る】

◆

「きつねの窓」

学習シート

5年 組

【学習範囲】（P / L ～ P / L ）

課題

【学習方法】

学習はじきをよく読んで、次の順に学習しましょう。

1 場面の情景がわかる言葉に直線を、「ほく」の気持ちがわかる言葉に波線を引く。

2 目につかんだ場面の情景と手がかりになる言葉をまじりして「ほく」の気持ちを想像して「ほく」の言葉でシートに書く。

。 次の三つの場面の「ほく」の気持ちを想像して、「ほく」の言葉で書きましょう。

想像の手がかりになる言葉

「ほく」の気持ち

(1) 店の裏手く回った時

(2) また両手で窓をのぞいた時

(3) 林の道を歩いている時

《調節》 □ ... 言葉の意味を考えて読み、やり直しましょう。 心算 □ → □

○.....フタフタの世界にひとりながらを小さな紙で朗読しましょう。

【学習をうけとる】



「きつねの窓」

学習シート

5年 組	
------	--

【学習範囲】（P 〃 〃 P 〃 〃 ）

課題	
----	--

【学習方法】 書かれている順に学習を進めましょう。

Ⅰ 学習範囲をよく読んで、場面の様子が分かる言葉に直線を、心情が分かる言葉に波線を引きましょう。

【きつねの手がかりになることば】

- ・ 秋の日がきらきらとにほはれて、林の中は温かく静か
- ・ すっかりいい気分になって鼻歌を歌いました

- ・ 細かいきり雨
- ・ ぼんやりと、なつかしい庭
- ・ 庭に面して古い縁側
- ・ その下に子供の長靴がぼつり出されて、雨にぬれて
- ・ 庭には、母の作っている小さい菜園
- ・ 青じそがひとかたまり
- ・ 家の中は、すこし明るい
- ・ 電気がついている
- ・ 一人の子どもの笑い声

- ・ フーッと大きなため息
- ・ なんだかせつなく
- ・ この指はいつまでも大切にしたい

【ほくの気持ち】

Ⅱ 店の裏手く回った場面ではどんな情景が目につかびましたか。頭の中にえがいてみましょう。それを見て「ほく」はどんな気持ちになりましたか。

Ⅲ また両手で窓を作ったのそいた場面では、どんなものが見えましたか。頭の中にえがいてみましょう。それを見て「ほく」はどんな気持ちになりましたか。

Ⅳ 「ほく」は、どんな気持ちで林の道を歩いていったのでしょうか。

【調節】 □ ...言葉の意味を考えて読み、やり直しましょう。 心機 □ → □
○.....フタヘタシの世界にひたりながらを小さな声で朗読しましょう。

【学習をうりかえり】